

## 1. 教育の責任

インバウンドが活況です。このペースでいけば 4000 万人を超えると言われています。日本の文化や食、伝統工芸品などに対する世界的な関心が高まっています。他方で、様々な課題も表面化しています。それらの課題を踏まえ、これからの観光をどのようにしていくかを想像してみる。観光の未来を考える人材を育成し、それに対応できる学生たちを社会に贈りだすことが責任だと思っている。

## 2. 教育の理念

本学の観光マネジメント、地域価値創造メジャーは真の観光人を育てることを目指しているが、それは必要不可欠なサービスに加えて、応用力のあるサービスができる人材の育成であり、それには、専門的な知識に加えて、幅広い社会に関する知識も必要となってくる。さらに、応用力のあるサービスには豊かな対人関係が築けるホスピタリティやコミュニケーション能力、そして社会のあらゆる主体のブリッジ役となれるコーディネート力も必要になってくる。ここから言えることは、結果的に真の観光人を育成するということは、どの業界にとっても必要とされる人材を育成することだということでもあると考えている。

## 3. 教育の方法

### (教員としての目標)

現代社会学部の学びを、どのようにキャリア形成に発展させていくかが、われわれ教員に課されている宿題であると認識している。世界が繋がったいまこそ、モノやサービスであっても、“日本のホンモノ”を世界に発信していくべき時代であると考えている。例えば、「ニッポン行きたい人応援団」(テレビ東京)の番組では、そこに登場する外国人は、日本の伝統産業や食に触れるといった観光をするだけでなく、日本でのホンモノ体験を自国に戻り、発信してくれている。また、サッカー元日本代表の中田英寿は、「にほん」の「ほんもの」をプロデュースしたものを、「にほんものストア」というオンラインストアとして、日本の逸品を世界に向けて発信している。もう、観光は見て体験するだけの時代ではなく、観光にこそ、グローバル化の中で埋もれがちとなっている地域の宝物に光を当て、その価値を日本全国・海外市場に発信していく役割があると思っている。そこには、人と人との交流、そしてイノベーションが生まれ、結果として地域産業の再生や新たなビジネスの誕生、産業・経済の発展につながっていく。それこそがグローバル社会における、これからの日本の生きる道であり、そこに大手前大学 現代社会学部「観光マネジメント・地域価値創造専攻」で学んだ学生たちが、その主役になれるように、学びをサポートする役割があると思っている。

### (学生に求めること、期待)

それらを学び、発信する学生(大切な人材)は IT、情報技術のスキルに加え、英語はもちろんのこと、例えばまだ、これからの市場(ブルーオシャン)であるインドネシア語などを身に付けようとする挑戦こそが重要になると考えている。そのような能力を身に付けた、彼らの活躍する舞台の広がりは無限となる。一方でビジネスの相手国の文化や嗜好を真摯に理解することも必要になってくる。つまり地域を丁寧に見ようとする姿勢と現地とのコミュニケーションが不可欠なのである。それらを学んだうえで、日本人が得意とするホスピタリティを身に付け(これも日本の地域力と言える)、おもてなし(気遣い)のできるならば、世界中のどこにいても活躍できると信じている。その力をぜひ、修得してほしい。

### 【実践】

観光マネジメント、地域価値創造専攻では、観光を勉強するだけではないという考えである。観光資源こそが、地域の魅力をつくっているという固有の考え方をもっていることから、地域での人びとの暮らし、また地域を基盤とする産業活動、地方自治体の施策などを考慮しながら観光というものを分析しようとしている。そこで、学生をまちづくりの現場に連れて行くフィールドワークの授業を用意している。コロナ禍で、観光業界は大きなダメージを受けたが、同時にこれまで以上に、「地元再発見」や「地域とのつながり」を考える機会を得た。改めて、コロナ禍を経験したわれわれは、地域を学ぶことでグローバルに広げることのできる視点を養い、社会に出て活躍してもらいたいという思いを強くしている。

地域価値を見直すことや地域を学ぶことは、地元志向の学生にとっては、必要不可欠なことではあるが、海外で活躍したい学生にとっても、非常に価値ある教育であると考えている。

#### 4. 教育の成果

ホスピタリティの授業で学んだ「おもてなし精神」を自分の強みにして、世界のラグジュアリーホテルの代名詞でもある「アマンリゾート」に内定もらった学生が誕生した。彼女は家族と初めて行ったハワイ旅行で、日本人が現地でサービス業を営んでいるのを眼にし、自分も観光ビジネスの経営者になるのもいいなと思って本学に入学したという。勉強するうちに、やはり一流のホテルで働き、一流のサービスを身につけたいと考えて、アマンリゾートを選んだそうだ。そのために、彼女は入学当初から好きな英語能力を高めるために授業を学修して、一流のサービスや言葉遣いを身につけるために、アルバイト先に、大阪梅田にあるインターコンチネンタルホテルを選んだ。

そして、アルバイトをするなかで、自分のホスピタリティ能力を高めた。彼女は、自らの望む生き方を考え、その可能性を実現するための学びを学内外でも身につける努力をした。そして自分の好きなことや得意なことを仕事に選んだ。ホテル以外にもたくさんの会社に挑戦し、内定を獲得し、いまは、東京に出て自分を試したいと考えている。

ラグジュアリーホテルと言えば、2025年の大阪・関西万博を機に、関西のみならず、全国で多くのラグジュアリーホテルや外資系のホテルが数多く開業された。これまで関西では、リッツカールトンホテルが最高級とされてきたが、それ以外に、「富裕層向け」の高級ホテルは足りていなかった。これに応じるように、来年開業する外資系ラグジュアリーホテルや日本のホテルでも積極的に海外に進出している星野リゾートなどに内定もらった学生も増えてきている。インバウンド客が増え、企業も積極的に採用へ動き出している。

さらに注目に値するのが、本学と提携している海外の大学へ、一年間または半年間の中・長期留学を経験し、帰国した逞しい学生や、また、中国の大学の授業にオンラインで参加しながら長期留学の出発を控えている学生も出てきた。彼らは2年・3年後の社会をしっかりと見据えて、自分の将来を考えている。

みなさんにも、自ら考え行動する力を身につけてもらいたい。

#### 5. 改善への努力と今後の目標

私の使命は、彼らに続くような学生を、しっかりと社会に送り（贈り）出すことだと思っている。

学生には、長期的な展望もみながら3年後、5年後の社会を想像して、しっかりといま何を準備すべきかを考えるように、リードしてゆきたい。国内市場も、コロナ禍を経て、再び活気を戻しつつある。

前述の通り、大阪や京都はもちろん、日本全国でラグジュアリーホテルの開業が続いている。そこには、世界の富裕層を相手にホスピタリティを身につけ、洗練された“おもてなし”を実践し、活躍している本学の学生が、国際文化都市の京都・大阪・神戸で活躍している。いや、東京、横浜かもしれない。そして、近い将来には、海外で活躍している学生も珍しくなくなる。

そんなことを想像しながらワクワクしている。

#### 【添付資料】

